

皇室費 平成23年度省庁別財務書類の概要

省庁別財務書類について

1. 作成目的
皇室の一般会計の財務状況を開示。

2. 作成方法
「省庁別財務書類の作成基準」に基づき作成

3. 各財務書類の表す財務情報
(貸借対照表)
資産及び負債の状況を開示。
(業務費用計算書)
本年度に発生した費用の状況を開示。
(資産・負債差額増減計算書)
貸借対照表の前年度末資産・負債差額と本年度末資産・負債差額の増減を要因別に開示。
(区分別収支計算書)
歳入歳出決算の財政資金の流れを区分別に開示。

皇室費の業務等の概要

皇室の費用は、内廷費、宮廷費及び皇族費の三つに分かれています(皇室経済法第3条)。
内廷費は、天皇・内廷にある皇族の日常の費用その他内廷諸費に充てるものとし、法律で定める定額を毎年支出されます。
宮廷費は、儀式、国賓・公賓等の接遇、行幸啓、外国ご訪問など皇室の公的ご活動等に必要経費、皇室用財産の管理に必要な経費、皇居等の施設の整備に必要な経費などです。
皇族費は、皇族としての品位保持の資に充てるためのもので、各宮家の皇族に対し年額により支出されます。

参考情報

公債関連情報(仮定計算により算定)
公債発行対象経費及び歳出決算額の累計額等を基礎として配分される本年度末公債残高766億円、本年度公債発行額40億円、本年度利払費9億円

貸借対照表 (単位:十億円)

	前年度	23年度	増減		前年度	23年度	増減
< 資産の部 >				< 負債の部 >			
有形固定資産	526	514	△11		-	-	-
国有財産(公共用財産除く)	525	514	△11				
物品	0.6	0.5	0				
				負債合計	-	-	-
				< 資産・負債差額の部 >			
				資産・負債差額	526	514	△11
資産合計	526	514	△11	負債及び資産・負債差額合計	526	514	△11

業務費用計算書 (単位:十億円)

	前年度	23年度	増減
内廷費	0.3	0.3	-
皇族費	0.2	0.2	0
宮廷費	3	4	0.9
減価償却費	2	5	2
資産処分損益	0.3	0	△0.2
本年度業務費用合計	6	10	3

資産・負債差額増減計算書 (単位:十億円)

	前年度	23年度	増減
前年度末資産・負債差額	475	526	50
本年度業務費用合計(A)	△6	△10	△3
財源合計(B)	5	6	0.5
租税等財源	5	6	0.5
資産評価差額	52	△7	△59
本年度末資産・負債差額	526	514	△11
(参考) (A) + (B)	△1	△4	△3

区分別収支計算書 (単位:十億円)

	前年度	23年度	増減
業務収支	-	-	-
財源	5	6	0.5
業務支出	△5	△6	0.5
財務収支	-	-	-
本年度収支(業務収支+財務収支)	-	-	-
本年度末現金・預金残高	-	-	-

主な科目の内訳

(カッコ内は前年度からの増減額)
(貸借対照表)
・国有財産(公共用財産を除く)
 5,141億円(△113億円)
 土地 4,933億円(△69億円)
 建物 106億円(△18億円)
 工作物 88億円(△20億円)

(業務費用計算書)
・宮廷費 41億円(+9億円)
・減価償却費 55億円(+29億円)

主な増減内容

1. 貸借対照表
(資産)・・・113億円減少
土地…国有財産台帳の価格改定による減 △69億円
建物…減価償却による減 △22億円
工作物…減価償却による減 △31億円

2. 業務費用計算書・・・37億円増加
宮廷費…資産取得による増 +9億円
減価償却費の増 +29億円

3. 資産・負債差額増減計算書
本年度業務費用合計と財源合計との差額(財源不足) △43億円
(左記(A)+(B)により算出)
⇒企業会計の「当期純損失」に相当

4. 区分別収支計算書
財源…配賦財源 +5億円
業務支出(施設整備支出を除く) +5億円